# ～せと市民総ぐるみ防災訓練～
# 令和７年度瀬戸市総合防災訓練
# 総括

令和７年１２月１１日（木）
訓練報告検証会

1

## １ 訓練目的

| 公助 | 共助 | 自助 |
|---|---|---|
| 瀬戸市 | 各連区・防災関係機関 | 市民等 |

参加

南海トラフ地震を想定した総合的かつ実践的な防災訓練を実施

市民の防災意識の高揚及び瀬戸市災害対策本部の体制強化を図る。

2

# 2 訓練概要

想定

## 南海トラフ地震発生

| | |
|---|---|
| 地域 | 安否確認訓練<br>情報伝達訓練<br>地域の実情に応じた訓練等 |
| 市役所本庁舎等 | 災害対策本部運営訓練 |

市民・地域が主体的に立案
「協働参加型」

情報ネットワーク・DX
の活用

3

# 3 訓練広報について

おうち防災訓練チラシ
の配布による事前周知

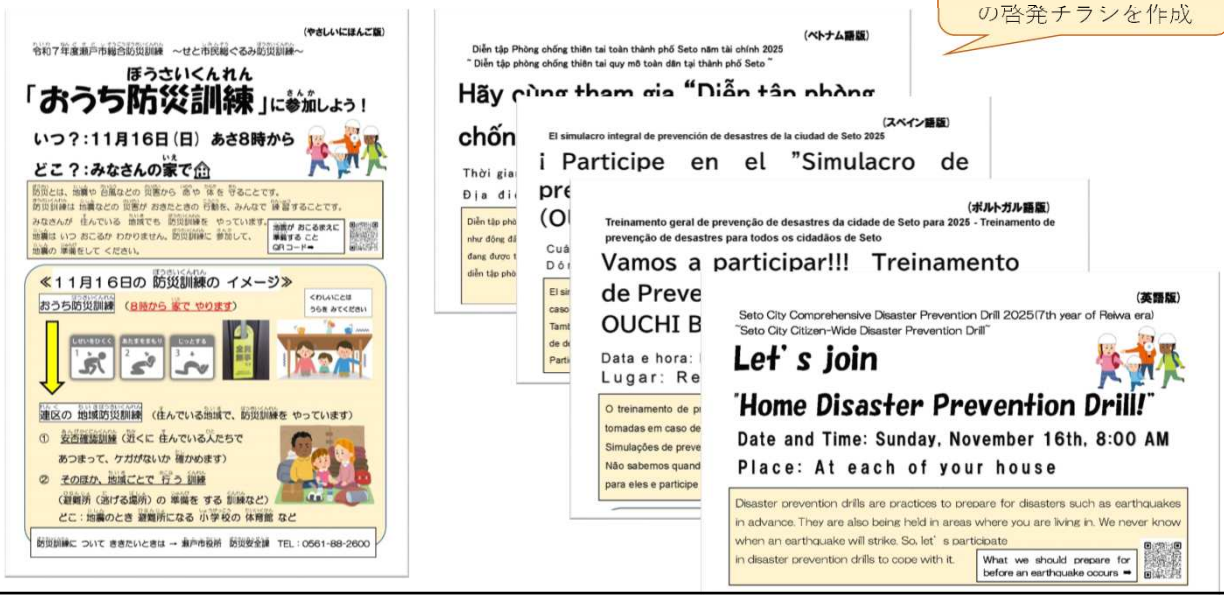
広報せと
１１月号
に
防災特集
記事掲載

訓練開始の合図は
左記の手段で実施

4

# 3 訓練広報について

やさしい日本語版及び
多言語にて外国人向け
の啓発チラシを作成




# 4 訓練に向けた事前研修

| 令和７年度せと市民防災塾　～今知っておくべき！　災害時のトイレ事情～<br>７月５日（土）　午前９時３０分から正午まで | |
|---|---|
| 第１部<br>（講 演） | 講　師：特定非営利活動法人　日本トイレ研究所　研究員　島村　允也　氏<br>演　題：「災害時のトイレ対策」 |
| 第２部<br>（体験型講演） | ⑴　トイレディスカッション<br>（災害時のトイレ事情についてのパネルディスカッション）<br>出演：瀬戸防火防災協会連合会、防災ままのわ瀬戸、瀬戸市役所防災安全課<br>⑵　災害時のトイレを体験しよう<br>（災害時のトイレを各ブースにて体験） |

6

# ４ 訓練に向けた事前研修

| 令和７年度せと市民防災塾　７月５日（土）　午前９時３０分から正午まで | |
|---|---|
| 参加者人数 | ２０９名（アンケート回答者１４７名） |
| 参加者属性 | 自治会関係者４４名、一般参加者３４名<br>防災団体関係者１１名、市職員５１名 |
| 次年度<br>取り上げてほしいテーマ | **１位‥在宅避難のススメ（７１）**<br>２位‥避難所運営の在り方（６１）<br>３位‥災害時要配慮者の視点を取り入れた防災対策、<br>避難所運営等（６０） |
| ご家庭でトイレに関する備蓄をしていますか | **１位‥備蓄していない（６４）**<br>２位‥簡易トイレ（６１）<br>３位‥生活用水（１０） |

7

# ５ 訓練指標の結果

（１）訓練参加世帯数

| 年度 | 安否札等掲出世帯 | | 安否確認世帯<br>（安否札等掲出＋声掛け安否確認） |
|---|---|---|---|
| 令和７年度 | **19,668世帯<br>（53.1%）** | → | **26,050世帯<br>（70.3%）** |
| 令和６年度 | 20,232世帯<br>（54.1%） | → | 26,862世帯<br>（71.8%） |
| 令和５年度 | 20,545世帯<br>（53.7%） | → | 26,406世帯<br>（69.0%） |

※　安否確認対象世帯数　…　37,039世帯
　　市内全世帯数　…　58,572世帯　（令和7年11月1日時点）
※　表のパーセンテージは「安否確認対象世帯数」を分母として計算

8

# 5 訓練指標の結果

## （2）安否札等掲出率、安否確認完了率（安否札等掲出世帯＋声掛け安否確認世帯）

| No. | 連区 | 安否札等掲出率 |
|---|---|---|
| 1 | 品野連区 | 77.5% |
| 2 | 古瀬戸連区 | 70.3% |
| 3 | 本地連区 | 61.7% |
| 全連区における最小値～最大値 | | 42.4%～77.5%（平均53.1%） |

| No. | 連区 | 安否確認完了率（安否札等掲出世帯＋声掛け安否確認世帯） |
|---|---|---|
| 1 | 水野連区 | 98.0% |
| 2 | 古瀬戸連区 | 86.4% |
| 3 | 品野連区 | 83.7% |
| 全連区における最小値～最大値 | | 52.6%～98.0%（平均70.3%） |

※　安否札掲出率上位３連区は、昨年度と同順位

9

# 6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

## （1）安否確認訓練について（良かった点）

| No. | 良かった点 |
|---|---|
| 1 | 毎年行っているため安否確認訓練を理解して掲出されている方が増えてきている。 |
| 2 | 訓練の趣旨を各組長がよく理解して、地区住民への指示を適切に出してもらえたので、スムーズに活動できた。 |
| 3 | 訓練前に住民台帳を整備し、介護（避難行動の支援）が必要な住民が把握できた。 |
| 4 | 事前に町内会長定例会で数回にわたり周知したことで、参加者が増えた。安否確認数の報告時間を決めたことで、他の訓練が順調に進行出来た。 |
| 5 | チラシの全戸配布や町内掲示板などで周知を行い、当日も消防分団や青色パトロールカーなどで連区内を回り一斉広報をしました。 |

10

# 6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（２）安否確認訓練について（反省や課題等）

| No. | 反省や課題等 |
|---|---|
| 1 | 防災訓練について参加協力の要請を連区全体に２度プリント回覧したが、安否札を掲出した世帯は全体の６割にも満たなかった。訓練が３連休の真ん中に行われたことも影響があったのではないか。日程面の検討が必要ではないかと思われる。 |
| 2 | 防災訓練前夜に消防分団の皆さんが町内を巡回して消防車から「防災訓練への参加」を呼びかけましたが、あまり効果はなかったようです。窓を閉めてTVを見ていたら、広報の声は打ち消され気が付く人は少なかったかもしれません。 |
| 3 | ここ数年の傾向として、安否札掲出世帯数が少なくなっている。当連区は数年前より、９月に自主防災訓練として同じように安否確認訓練を行っているため、マンネリ化が心配される。 |
| 4 | 日曜日の８時はまだ休息されている家庭もあり、協力が得られない。未掲出世帯への声掛けはしづらい。 |

11

# 6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（３）各連区における実情に応じた訓練について

→連区ごとに一覧表にまとめ、配布資料に入れてあります。
　後日、市ホームページにも掲載しますので、各連区での情報共有、訓練の参考などにお使いください。

12

# 6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

## （3）防災訓練に関するご意見、ご要望など①

| No. | 反省や課題等 |
|---|---|
| 1 | 「自主防災リーダー研修会→春の地域防災訓練→せと市民防災塾→市民総ぐるみ防災訓練＋秋の地域防災訓練→訓練報告検証会」のサイクルを回していくとスパイラルアップができることが分かる。市が大きな流れを作ってくれているので、その中に自分たちの地域特性や課題を考えた防災減災活動を織り込んでいく。 |
| 2 | 連区の仕事量が多く、これらを減らす工夫をしてほしい。例えば、各連区ですぐに使えるようなマニュアルのひな形があると省力化できる。 |
| 3 | 全連区が同日に一斉に訓練を行うため、借用希望資材の調達数、品目に不足が起きる。 |
| 4 | 避難所開設運営で主体となる連区自治会と、市地域防災支援員、市災害対策本部、市議会議員の方との連携や動きが今一つ明確ではなく明文化されていません。文書化されていたとしても、それを基にした打ち合わせが出来ていません。今後は情報共有を目的にした打ち合わせの機会を設けていただくことを希望します。 |
| 5 | ペットの避難は周囲に柵等が必要と思うが、市で準備していただけないのか。 |

13

# 6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

## （4）防災訓練に関するご意見、ご要望など②

| No. | 反省や課題等 |
|---|---|
| 6 | 訓練の日程変更は可能か。例えば、月末月初に行うのはどうか。組長会議が月末にあるため、会議から訓練までの日数が短い方が啓蒙しやすいと思う。 |
| 7 | 各連区から出てきた反省等をまとめて同様な方法の継続を行うのも良いが、新しく行える訓練を何か取り入れる検討も必要ではないか。 |
| 8 | 安否確認後に、一時集合場所から避難所に向けて避難を開始しますが、高齢者率が高い地域では避難すら体力的に難しくなります。安否札に「自宅待機します」等の種類を増やし、自宅避難を想定する工夫を行う必要があると思います。 |
| 9 | 準備に時間と労力がかかり、スタッフも高齢化が進んでおり大変。連区内住民の中から若い担い手が増えてくれることを期待しているが、何か良い策はないか。 |
| １０ | 防災グッズの展示、販売や、地震以外を想定した訓練も実施してほしい。 |

今回実施した訓練で明らかとなった課題について、瀬戸市自治連合会（防火・防災部会）とも意見交換しながら、次年度の訓練を企画します。

14

# 7 災害対策本部運営訓練

| | |
|---|---|
| 訓練内容 | 災害対策本部運営室を本庁４階大会議室に設置し、災害発生時に想定される被害通報等の様々な情報に対し、災害対策本部の各部班が連携をとりつつ迅速で的確な判断を下す図上シミュレーション訓練を行いました。<br>今年度は初めて、発災から２４時間が経過した時点を想定して訓練を行いました。 |
| 成果 | 各連区の地域防災訓練に５４名、本庁の災害対策本部運営訓練に１０９名の市職員等が参加しました。<br>限られた人員で災害に対応するための業務継続計画や、外部団体に応援要請を行うための受援計画の検証を行いました。訓練想定時間を発災後２４時間経過時点に移したことで、今までにない課題が見えてきました。 |

# 8 関係機関との連携

| 関係機関名 | 連携内容 |
|---|---|
| ㈱尾張東部放送 | 「ラジオサンキュー（ＦＭ84.5ＭＨｚ）」の特別番組放送による防災情報啓発 |
| グリーンシティコム㈱ | Ｌ字放送による防災情報啓発 |
| 瀬戸旭医師会<br>(瀬戸旭在宅医療介護連携推進協議会) | 「瀬戸旭もーやっこネットワーク」を活用し、医療機関、介護事業所等の被害情報等を共有する防災訓練 |
| 瀬戸アマチュア無線クラブ | アマチュア無線の通信訓練 |
| 災害協定締結ホテル | 避難者受入のための情報伝達訓練 |

16